



ZONE ラウェイ公式ルール

第1条：リングおよび競技者の着衣

1. 正方形のリングで行い、リングの一边は最低 16 フィート（約4 葎90cm）から 24 フィート（7 葎30cm）以内。リングは 4 つのコーナーポストにしっかりと結び付けられた、直径 0.75 インチ程度の 4 本のロープによって囲まれるものとする。
ロープは、布か柔軟な革で、ロープが外側に突出する部分は 3 フィート（約90cm）未満でなくてはならない。床は最低 2 インチ（約5cm）厚の柔軟な布、干し草マットあるいはコルク素材によってカバーされるものとする。ロープ内に囲まれた範囲の他に、安全に平らにしっかりと張られたキャンバスの層があるものとする。
2. 選手は試合中トランクスを着用し、いかなる上着及びいかなる靴を着用しない。
金属あるいは他の用品(金属バックルあるいはネックレスなど、相手を害するかもしれないもの)を使用することは禁止する。
3. 選手は 20 フィート（約6 葎）程度のバンテージを巻く。
4. 選手はノンファールカップを着用しなければならない。
マウスピースは任意である。
5. 選手は競技の 1 日前に公式計量をし、ZONE コミッション（主催者）の指定するドクターによって健康状態を検査されなければならない。

第2条：ラウンド

1. 試合は3分5ラウンド（90秒のインターバル）。

第3条：セコンド

1. リング内に入れるセコンドは2名でリング外に 1 名とする。
2. 試合中セコンドはリング外のコーナー側にいなければならない。
3. セコンドは試合中リング内に入ることは許されない。

第4条：ペナルティー及び審判員

1. 試合は1名のレフェリーと1名以上の審判員から構成される。
2. レフェリーの義務は、選手とセコンドが試合の規則を厳守する様に指導し、選手を保護することである。
3. 故意でない違反の場合にはレフェリーはその選手に警告を発し、悪意のある許しがたい違反を犯した選手には試合を没収し、失格を宣告する。
4. レフェリーは基本として試合中、「ストップ」、「ブレイク」及び「ボックス（ファイト）」

3つの単語しか使用しない。

第5条：判定

1. ダウンカウントはレフリーの判断により開始され、約2秒間隔で10回刻まれる。
ダウン後2秒以内に立ち上がれば、ダウンとされずカウントをしない。
全てのラウンドにおいて、ラウンド終了ゴングと同時にダウンカウントは中止される。
2. スタンディング時の関節技及び締め技から逃れる為に、故意にマットに倒れこんだと認められた場合は「1 ダウン」とする。
3. 選手がダウンした後、カウント10までの間に起き上がれない場合又は、1ラウンド中3度のダウンもしくは、全ラウンドを通じて4度のダウンで「ノックアウト負け」とする。
3. 第7条に定める正当な攻撃により選手が過度に負傷又は出血した場合、レフェリーはドクターに負傷部位を見せる必要があり、試合を続けることが出来るかを決定する。
ドクターの判断で続行不能と見なされれば、「ドクターストップ負け」となる。
4. 選手本人、もしくはセコンドが続行不能と判断した場合は「リタイア負け」とされる。
5. 採点は行なわず、5ラウンド終了時までには勝敗が決しない場合は全て「ドロー」とする。

第6条：スペシャルレスト（試合中、セコンドが行使する事により、試合を中断し選手を90秒間休息させ回復させる事が出来る。1Rから4Rまでに1度のみ許される）

1. スペシャルレストを行使する場合は、セコンドがレフリー又は審判員に向けて、タイムの意思表示（片方の手を水平、もう片方を垂直にし、手首の部分で交差させ「T」の時を作り、口頭でもタイムと宣言する）をした時点で認可される。ダウンカウント中でも行使出来る。

第7条：許される攻撃と反則

1. 拳、腕、肘打ち、膝蹴り、関節技、キック、レスリング、クリンチ、投げ技、腕ねじり、頭つきによるいかなる攻撃も許可される（スタンディング状態の時のみ）。
2. 選手がダウンした場合、相手は攻撃を止めなければならない。止めない場合は反則とみなす。
3. 攻撃を避けるための故意のダウンは反則とみなす。
4. 噛みつき、目突き、目つぶし、股間への故意の攻撃、頭髪を引っ張る行為、相手に唾を吐く行為、悪罵、その他著しく敬意を欠く行為は全て反則とみなす。

第8条：その他の事象について

1. 本公式ルール以外の事象が発生した場合はZONEコミッション（主催者）の判断が全てに優先される。
2. 本日本語版公式ルールは、他の言語で作成された全てのバージョンに優先される。

2016年3月1日改訂